



さろまげんき王国

保健福祉課保健推進係

Tel

2・1212

おとなの予防接種 ～肺炎球菌ワクチン～

肺炎にかかって亡くなる方は年々増え続けています。佐呂間町でも、がん、心疾患に続き、肺炎で亡くなる方が3番目に多くなっています。肺炎を予防するためには、手洗い・うがいに加え、禁煙、十分な休養と栄養などが大切です。さらに、65歳以上の方には肺炎球菌による肺炎を予防できるワクチン（肺炎球菌ワクチン）の接種もおすすめしています。今回はその肺炎球菌ワクチンについて、これまでに問い合わせの多かった質問にお答えします。

Q1

肺炎球菌による感染は普通の肺炎と違うの？

A

肺炎球菌は肺炎を引き起こす菌の名称です。肺炎は、肺炎球菌のほか、A群レン

サ球菌、マイコプラズマなど様々な微生物等が原因でかかります。中でも、肺炎を引き起こす原因菌の約40%が肺炎球菌であるといわれており、肺炎の原因で最も多い菌となります。また、肺炎球菌が原因の肺炎は重症化しやすいため、ワクチンによる予防をおすすめしています。「誤嚥（ごえん）性肺炎」という、つばや逆流した胃酸などが気管に入り、それに含まれていた細菌が原因でかかる肺炎でも、肺炎球菌が2番目に多い原因といわれています。

Q2

肺炎球菌ワクチンを打てば肺炎にならないの？

A

肺炎球菌ワクチンは、肺炎の原因で最も多いといわれる肺炎球菌による肺炎を予

防します。しかし「Q1」の通り、肺炎は様々な原因で引き起こされるため、肺炎にならないということはありません。また、過去に肺炎にかかったことがあっても、接種しなくていいということではありません。

※肺炎球菌だけでも93種類の型があり、肺炎球菌ワクチンはそのうちの23種類の型に効果のあるワクチンです。これら23種類の型は、肺炎球菌感染症の原因の約7割を占めるといわれています。

Q4

ワクチンの効果はどのくらい続くの？
2回目以降は打ったほうがいい？

A

ワクチンの効果については研究にもよりますが、打ってから5年

Q3

ワクチンの副作用はあるの？

A

打ったところが赤く腫れたり、痛みを感じることがありますが、数日中に治まるものがほとんどです。まれに熱が出たり、じんましん、呼吸困難といった重大な副反応が現れることがあるため、その場合は早めに受診しましょう。

経つと抗体価（免疫が菌に抵抗する力）がピーク時の20%になる、5年〜10年で接種前のレベルに戻る、などの報告があります。また、1度ワクチンを打った方が5年以内に再度ワクチンを打つと、副反応が現れやすく、また程度も強くなりやすいといわれていますので、再接種については主治医に相談しましょう。

Q5

肺炎球菌ワクチンの定期接種では、何歳の人がワクチンを打てるの？

A

国が定めた平成29年度定期接種対象者は【表1】

の通りです。対象者の方がクリニックさるまで打つ場合は、本来の接種料金の半額（3,200円）が自己負担になりますので、窓口でお支払いください。予約はクリニックさるまに直接お電話ください。また、クリニックさるま以外の病院で打つ場合は、「任意接種」（↓Q6「へ」として打つことができます。

Q6

定期接種対象以外の人は打てないの？

A

65歳以上の方であれば「任意接種」として打つことができます。ク

【表1】平成29年度肺炎球菌ワクチン定期接種対象者一覧表

年齢	生	年	月	日
65歳	昭和27	(1952)	年4月2日～昭和28	(1953) 年4月1日
70歳	昭和22	(1947)	年4月2日～昭和23	(1948) 年4月1日
75歳	昭和17	(1942)	年4月2日～昭和18	(1943) 年4月1日
80歳	昭和12	(1937)	年4月2日～昭和13	(1938) 年4月1日
85歳	昭和7	(1932)	年4月2日～昭和8	(1933) 年4月1日
90歳	昭和2	(1927)	年4月2日～昭和3	(1928) 年4月1日
95歳	大正11	(1922)	年4月2日～大正12	(1923) 年4月1日
100歳	大正6	(1917)	年4月2日～大正7	(1918) 年4月1日

リニックスさるま以外の病院で打つても差し支えありません。接種料金を病院で全額お支払いしていただくこととなりますが、役場に手続きにきていただくのと、接種費用の2分の1を助成し（5,000円を限度）、指定された口座に後日振込みます。手続きの流れについては【図1】をご覧ください。

注：定期接種あるいは任意接種で助成を受けられるのは1回きりで、2回目以降の接種は全額自己負担になります。

【図1】任意接種助成手続きの流れ

① ワクチン接種

③ 役場に申請

② 病院窓口で支払

【役場に持っていくもの】

① 領収書

② 接種内容が確認できるもの

（予防接種手帳、接種済証など）

③ 印鑑

④ 振込先の口座番号

これもお知っておきたい！
インフルエンザと
肺炎の関係について

肺炎のなかでも、季節性のインフルエンザウイルスが原因となる肺炎は比較的まれです。しかし、インフルエンザにかかる免疫力が下がるため、体に病原体が入りやすくなり、普段よりも肺炎を引き起こす可能性は高まります。そのため、肺炎球菌ワクチンだけでなく、インフルエンザワクチンも打つことで、肺炎になるリスクを抑えることができます。またインフルエンザに限らず、年齢を重ねていくと免疫力が下がり、咳をして菌やウイルスを外に出す力も弱くなるため、病原体が肺まで入りやすくなります。持病のある方、ステロイドなどを使っている方も全身の免疫力が低下しやすいため、注意が必要です。